



ROTARY
MAKING A
DIFFERENCE

三条北ロータリークラブ週報

2017-2018年度

国際ロータリー会長：イアンH. S. ライズリー「ロータリー：変化をもたらす」

第2560地区ガバナー：新保 清久「クラブと地区の変革をめざそう」

—MakingADifference in Club and Our District—

三条北ロータリークラブテーマ

「ロータリーの魅力を再確認し、ともに変化をもたらそう」

会 長：渋谷 義徳

幹 事：石黒 隆夫

SAA：松山 浩仁

例会日：火曜日12:30～13:30

例会場：三条ロイヤルホテル TEL:34-8111

事務局：三条市本町3-5-25三条ロイヤルホテル内

TEL:0256-35-7160 FAX:0256-35-7488

HP：<http://www.sanjo-nrc.org>

AD：north@sanjo-nrc.org



例会日 2017. 12. 12

累計No.1481

当年No.22

本日の行事：卓話「電気の歴史と今?!」

—変革のとき—

- ◆本日の出席：65名中38名
- ◆先々週の出席率：65名中43名 66.15%
(前年同期 78.79%)
- ◆11月の出席状況：会員数65名
例回数4回 平均出席率 75.77%
(前年同月 84.08%)
- ◆本日のゲスト：
東北電力株式会社新潟県央営業所
所長 江部 卓城 様
- ◆先週のメイクアップ (敬称略)
12月11日三条南RC 今井克義
- ◆本日のビジター：
三条RC 小出子恵出さん

* 本日の配布書類等

- ・週報No.1480
- ・講演会アンケート結果

会長挨拶：渋谷義徳会長



皆さんこんにちは。今の季節は二十四節気での大雪に当たります。12月7日～21日をさし、寒さも本格的になり、昼間の時間もいよいよ短くなります。年末に向かって何となく気忙しくな

っています。今週の例会もお忙しい中をテーブルが満席になるほどの出席をいただきありがとうございます。

本日は、東北電力新潟県央営業所 所長 江部卓城様に卓話者としてお出でいただいています。江部様よろしくお願ひ申し上げます。

12月6日(水)に三条市総合福祉センターで行われた、三条市特別支援教育研究協議会主催 平成29年度 三条市内特別支援学級児童生徒「ウィンターフェスティバル」に参加して来ました。三条ライオンズクラブが積極的に支援している社会奉仕事業のようで、女性2名を含んだ6名の参加があり、慣れた様子で手際よく行動していました。ロータリークラブからは市内4クラブからそれぞれ一人ずつの参加でした。児童生徒180名、先生、学校長、教育・福祉関係者、支援団体などを合わせて300人近い人が集まっていま

した。クリスマスカードの交換やサンタクロースとのお遊びがあり、そこで私はサンタクロースの衣装を着て、子供たちにクリスマスプレゼントを配ったり、お話をしたり、一緒に写真を撮ったりの仲間入りをして、子供たちや先生方から大変喜んでもらえました。来年も開催されるでしょうから、高橋会長エレクトにしっかりと申し送りさせてもらいたいと思っています。

8月8日の例会会長挨拶で紹介しました、東京五輪、パラリンピックの「顔」となるマスコットの候補が公表されました。2000を超える作品の中から、厳しい基準をクリアした3案から、小学生が投票で選ぶ五輪史上初の試みに子供たちの関心も高まっています。11月から来年2月22日まで全国の小学校の各クラスに一票を与える投票を実施し、最多得票の採用作品が2月28日に発表されます。私が選ぶマスコットと小学生に選ばれるマスコットが同じかどうか興味を持って採用作品の発表を待ちます。皆さまも、ご家庭でお子様とこのことを話題にされたらいかがでしょうか。会長挨拶を終わります。本日もよろしくお願ひ申し上げます。

幹事報告：石黒隆夫幹事



- ・新保ガバナーより 「地球環境保全のための植樹事業（下越地区）のご案内」
期日 2018年5月12日(土) 場所：グリーンパーク
2018年5月26日(土) 場所：あらかわ総合運動公園
- ・川瀬ガバナーエレクト事務所より 地区大会実行委員会のご案内
日時 12月21日(木)18:30～ 会場 小山屋
- ・三条ローターアクトクラブより 1月第一例会（新年会）のご案内
日時 平成30年1月12日(金)19:30～
会場 越前屋ホテル
- ・吉田RCより 訃報のご案内
初代会長 涌井智一郎会員逝去
通夜 12月13日(水)19:00～ セレモニーホール飛燕
告別式 12月14日(木)10:00～ 同上
- ・比国育英会バギオ基金より 事業報告書送付と基金への御寄付のお願い

委員会報告：社会奉仕

11/8 尾木直樹講演会アンケートの集計結果を配布しました。一読して頂き今後の活動に役立てて頂きたいと思っております。



*******ロータリー財団ボックス12日現在累計221,000円*******

落合 益夫君 財団BOXに協力
岡田 大介君 石川委員長に協力します。
石川 一昭君 江部様、雪の中ありがとうございました。本日の卓話よろしくお願ひ致します。



*******米山奨学ボックス12日現在累計364,000円*******

笹原 壯玄君 ペースメーカーの交換にいつて来ました。2台目の機会ですが順調に動いています。
大野 新吉君 米山奨学会に協力して。
雪国では雪がふるのが当たり前、でも今年来年と少雪を願って。
武田 恒夫君 米山BOXのテーブルに米山さんがいらしたので
高橋 彰雄君 協力します。
米山 忠俊君 BOXに協力
坂内 康男君 いつもBOXに協力ありがとうございます。



*******ニコニコボックス12日現在累計465,000円*******

小出子恵出君 (三条RC) 大変お世話になっています。家の前の国道は今シーズン3回目の除雪車が出動しました。今度は根雪になりそうです。少し早いですが来る年もよろしくお願ひ致します。

笹原 壯玄君 病院通いが多くなり欠席が多くなり申し訳ありません。今日は早退します。
中條 耕二君 東北電力所長の江部様の卓話に期待して。三条クラブの小出会長さんようこそお出で下さいました。

渋谷 義徳君 東北電力(株) 県央営業所長江部様、本日は宜しくお願ひ申し上げます。
石黒 隆夫君 東北電力 江部様 本日はようこそ三条北ロータリークラブへ、電気の事色々教えて下さい。小出会長いつもお世話になっております。

落合 益夫君 ニコニコBOXに協力
星野 義男君 大雪が雪害にならないよう祈ります。
中原 尚彦君 ニコニコBOXの席しか空いておりませんでした。協力します。
羽賀 一真君 東北電力の江部様、ようこそいらっしゃいました。先日の越前屋ホテルで川瀬年度奉仕委員会で一緒した羽賀です。宜しくお願ひします。
小出会長お越し頂きありがとうございます。



(イライラ BOX)

森 宏君 今朝は高速道路が事故渋滞でイライラでした。

本日の行事：卓話 東北電力株式会社新潟県央営業所 所長 江部卓城様



講師紹介：高橋研一プログラム委員長

江部様は三条の出身で武田会員とは中学の同期だそうです。東北電力の本社は仙台にあります。江部様は所長としては一番若いエリートでいらっしゃいます。私は電気工事の仕事をして40年間やっていますが、いつも東北電力さんにはお世話になっております。今日はエネルギーのお話だと思いますが、江部所長はゴルフもとても上手いのでゴルフのお話もして頂けないかと期待しております。

「電気の歴史と今?! -変革のとき-



東北電力 新潟県央営業所の江部でございます。本日は卓話の時間をいただき、誠にありがとうございます。電気事業は今大きな変革期となっております。今日はそうした電気事業についての歴史を振り返りつつ、今の電気事業の状況を出来る限り説明させていただきます。

これは明治末から大正初期の一ノ町通りとあります。いわゆる大通りだと思われ。よく見ると道路の両脇に電柱が立ち、その上の方に腕木が何本も付いているのが判ります。この腕木に電線が載っていたものと思われ。三条に電気がついたのは、明治44年のこととあります。はじめは大通りの何軒というほどだったそうです。「全くお祭り騒ぎで、今までのランプの明るさに比べて、何という素晴らしい白い明かりであったことか。子供たちはわいわい騒ぎながら一軒一軒のぞき歩いた」そうです。

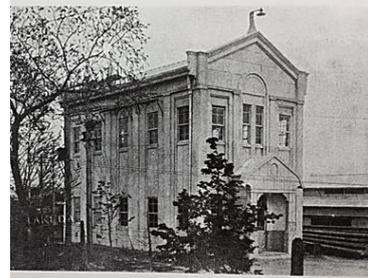


これは明治末から大正初期の一ノ町通りとあります。いわゆる大通りだと思われ。よく見ると道路の両脇に電柱が立ち、その上の方に腕木が何本も付いているのが判ります。この腕木に電線が載っていたものと思われ。三条に電気がついたのは、明治44年のこととあります。はじめは大通りの何軒というほどだったそうです。「全くお祭り騒ぎで、今までのランプの明るさに比べて、何という素晴らしい白い明かりであったことか。子供たちはわいわい騒ぎながら一軒一軒のぞき歩いた」そうです。

周辺の町村では、村松、五泉、新津が明治42年に、加茂が三条と同じ明治44年、翌年の45年には見附、今町、栃尾に電気がついたようです。

現在の旭町にある東北電力が元からの場所で、明治44年に新潟水力電気という会社の三条出張所として開設されました。出張所が出来てもなく東別院に通じる井栗街道の新道がその前にできたとのことです。当時はイタチが化けて出たとか、追剥ぎにあったとかで相当な田舎であったようです。大正15年2月、現在の東北

電力の営業所に変電所ができ、それが三条で初めての鉄筋建物だということです。昭和初期の送電線の線路図です。当時、阿賀野川水系早出川の水力発電所から五泉、加茂、三条、見附と送電線が延びています。また別の送電線が新潟を中心として延びています。信濃川を挟んで東側が新潟水力電気、燕など西側は新潟電気の営業区域となっていたようで、当時は烈しい競争を繰り返していたようです。



明治後期の産業の動力は人力と石油発動機が主流だったようです。明治の終わる頃三条町六ノ町鉄(ハジ)鍛工渡辺吉次郎が、電気動力設備による研磨作業を始めたようです。残念ながら、本格的に使われ出すのは、関東大震災後の特需に忙殺されたところからとのことです。

また、見附は加茂とともに県内でも最も早く力織機化が進んだとのことです。当時の動力は石油発動機だったのですが、石油で織物を汚す欠点があったことから、電気による力織機化が急速に進んだとのことです。これも五泉、加茂、見附と送電線が延びてきていたことがその直接的な要因であるようです。

電気が使われだすと段々と停電が頻発しました。いわゆる電気の需要に供給が追いついていかない電力不足の状況と、送電設備等の脆弱性も相まって、停電が社会問題化してきます。こうしたことから、電力不足を解消するために、一斉に電気が使われないように代わり番ごとに地区毎の停電をさせて乗り切ったようです。当時は当たり前のように輪番停電しており、電休日

と称して週2日電気が来ない日があったようです。

その間、電力会社は何とか電気をつけるために発電所を作り、送電線をつくり、変電所を作っていたわけです。電気が暮らしを支え始めたことを電力マンはひしひしと感じて使命感に燃えて設備形成に励んだものと思われまます。これが電力マンのDNAとなったものと思えます。

先ほど見たとおり、三条は新潟水力電気、燕は新潟電気が営業区域としてお互いがしのぎを削っていましたが、同じところに新潟水力電気の配電線と新潟電気の配電線がある二重設備となり、非常に無駄な設備構成となってきました。全国的には電力会社の資本が統合されて合併が進展しました。昭和5年には、新潟水力電気と新潟電気が合併し、新潟電力となりました。いよいよ我が東北電力の誕生であります。

1930年代は世界恐慌、昭和三陸大津波、冷害・凶作と地元経済界・庶民の暮らしを疲弊させる出来事が相次ぎました。そうした東北地方の疲弊に対する不満も背景として、昭和11年（1936年）、一部の青年将校による軍事クーデター2・26事件が勃発します。

2・26事件は失敗に終わりましたが、その結果、東北地方の疲弊に対して政府としても何か手を打たなければならないとの機運が盛り上がりました。そこで、2・26事件が起きたその年に、政府が出資して作ったのが、「東北興業株式会社」と「東北振興電力株式会社」です。

特に、東北振興電力は、定款に「東北地方の振興を図るため、同地方における電気事業を営むを以って目的とする」と明記されています。東北振興電力は設立から僅か5年で戦時体制のため統合されますが、その間、矢継ぎ早に14カ所の水力発電所を建設するとともに、青森～福島に至る南北送電網の整備も行いました。こうして整備された電力網による電力の安定供給体制を売り物に全国から数十社の企業誘致に成功し、殖産興業の旗振り役になりました。

しかしながら、日中戦争がきっかけとなって、設立から5年2ヶ月でその歴史に幕を引くこととなりますが、現在の9電力会社体制が1951年（昭和26年）5月に発足し、東北電力に東北振興電力が担った新潟を含む東北地方の殖産興業、地域振興という使命は受けつがれたということが大切なことです。

この東北振興電力の使命を受け継いだ証として、東北電力の経営理念は、**地域繁栄への奉仕**とな

っております。

そして、2年前に現在の原田社長に交代した際には、「より、そう、ちから。」というコーポレートスローガンを打ち出し、お客さまにより沿う、地域に寄り沿うを合言葉に、「より、そう、ちから。」活動を行っています。

昭和26年に発足いたしました東北電力ですが、急速に伸びる電気の需要にいかん発電所を建設し、供給していくのが大きな課題となりました。26年設立当時47億kWhであった発電電力量は毎年ぐんぐんと伸びて平成17年には756億kWhと15倍にもなっています。この間、電気の供給をまかなうために水力から石油火力へ、オイルショック以降は原子力を含めた多様な電源を組み合わせられるエネルギーミックスの発電形態を志向してきましたが、東日本大震災以降原子力が停止し、現在では9割が火力発電に依存している状況が続いています。

次に東日本大震災の発生について話をさせていただきます。ここからは、一今変革のときです。

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、太平洋側の各地で津波による甚大な被害が発生しました。

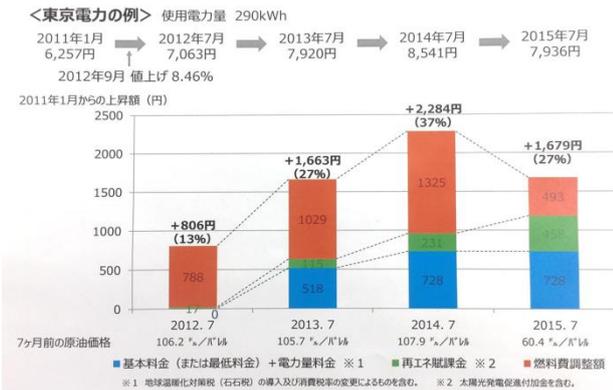
被害がなかった各所から一斉に応援部隊が被災地に入り、一刻も早い電気の送電に昼夜を問わず全力で復旧にあたりました。延べ21万4千人、最大1日5400人の稼働で次々に復旧していきました。3/11は466万戸が停電していましたが、まず、火力発電所を再起動して、送電線の切り替えて順次発電容量にあわせて電力の供給を始めました。3日後には80%の停電が復旧しました。8日後には約94%が復旧し、6/18には復旧に着手可能な地域の停電はすべて解消しました。

こういった災害のときに、電力マンのDNAが発揮させます。「一刻も早く電気をつけたい」という思いです。津波で被災したところでは宿泊施設などありません。車中泊や当社事業所の床に段ボウルを敷いて、毛布に包まり寝ました。みんな一生懸命に復旧にあたりました。

この東日本大震災が日本の電力事業に大きな環境変化をもたらしました。

1番目は「電気料金の高騰」で、2番目が「電力システム改革」です。3番目「より、そう、ちから。」活動です。ひとつひとつ詳しく説明させていただきます。

震災後の標準家庭における電気料金の上昇とその要因



これは、経済産業省が作成した電気料金に関する資料です。

みなさんは東日本大震災以降原子力発電所が停止し、電力不足となり電気料金が値上がりしたとお思いではないでしょうか？

確かに燃料費が安い原子力発電所が停止して、その分の電力を燃料費が大幅にかかる火力発電で賄わなければならなくなったことから、電力会社は一斉に電気料金の値上げを申請しました。東京電力の場合、2012年(平成24年)9月に平均8.46%の値上げをしました。しかし、その後も電気料金は値上がりし、2014年(平成26年)7月には37%も値上がりしており、皆さんもこのころには電気代が高くなったと実感したのではないのでしょうか？この高騰の主な要因は、実は原子力発電が停止したための値上がりだけではなく、燃料価格の高騰と再エネ賦課金が値上がりしたことにもよります。意外に知られていませんが、電気料金は国に許認可を受けて改定されるほか、燃料価格の変動や再エネ賦課金などでも自動的に変動しています。

当社の電気使用量をお知らせする検針票をよく見て頂きますと「再エネ発電賦課金 幾ら幾ら」と書いてあります。また、同じように燃料費調整額も表示されています。

震災以降、国は再生可能エネルギー、つまり太陽光、風力、水力、バイオマス、地熱の各発電について、積極的な導入をすすめるために、固定価格買取制度を震災翌年の2012年度から導入しました。太陽光発電であれば、国が定めた固定価格(初年度は40円/kWh)で電力会社を買取るかわりに、電力会社の売電価格(例えば20円/kWh)との差額(逆ザヤ)を電気の使用量から再エネ発電賦課金としていただいております。

この制度ですと、再生可能エネルギーはどんどん普及は進みますが、普及が進むと電力会社が

買取る価格と売電価格の差額の総額はどんどん膨らみ、賦課金の単価は上昇していきます。今年度は、kWh当たり一律2円64銭いただくことになっております。今後も再生可能エネルギーの普及にともない賦課金は上昇していく可能性が極めて高いと思われます。次に燃料費調整額について説明させていただきます。

航空運賃で燃油サーチャージというものを聞いたことがあると思います。航空機の燃料費が高騰した折に、追加で料金が加算されるものです。電気料金にも同様の制度が導入されています。発電に使う燃料費が経済情勢の変化により変動することから、毎月補正単価が変わります。2013年(平成25年)～2015年(平成27年)までは、kWh当たり1.5円程度値上げとなっていました。昨年秋にはkWh2.84円割引となっていました。ここ数年で最大でkWh4.5円もの値下げとなりました。これも最近の中東情勢を踏まえると見逃すことが出来ない電気料金の高騰要因だと言えます。

環境変化の2番目は電力システム改革です。

1951年(昭和26年)に現在の全国9電力会社体制が発足して以来、大きな変化がなく基本的に全国9電力会社体制のもと、ひとつの電力会社が発電、送電、配電、販売を行う垂直統合型の電気事業が行われてきましたが、①電力の安定供給、②電気料金の抑制、③事業者の事業機会および需要家の選択肢拡大を目的として、今その体制を大きく変え、国主導で新たな社会システムが構築されようとしています。

それが、電力システム改革です。すでに第一段階、第二段階は終了しております。

2020年(平成32年)には第三段階として送配電部門の法的分離が行われます。

昨年4月の第二段階「電気の小売全面自由化」により現在450社もの電力会社が登録されています。そうした面では事業機会が広がり、需要家の選択肢も拡大されたと言えると思います。東北電力でもお客さまのいろいろな電気の使われ方にあった低廉な電気料金メニューを新設し、こうした新しい電力会社に対応しております。新メニューの一端をご紹介させていただきますと、春・秋や夜間で比較的電気が使われないうちを割安な料金設定としている「よりそう+シーズン&タイム」、夜間・休日を割安な設定としている「よりそう+ナイト&ホリデー」、使用料が比較的多い大家族などが割安となる「よりそう+ファミリーバリュー」などがあります。電気代が高く、もう少し安くならないかと思われ

ているお客さまは、どうぞ東北電力の新潟県央営業所までお問合せください。

電力システム改革の第三段階は、送配電部門の法的分離です。

どの電力会社もアクセスできるよう、送配電網（ネットワーク）の中立性を一層高めることを狙いに、2020年（平成32年）に当社のネットワーク部門を別会社化することが送配電部門の法的分離です。

11/30 に新潟県内の拠点再編成について発表しています。来年7月には私の営業所のなかも、2つの事業所に分けられ、所長が2人になります。ひとは、電力販売を行う営業所長、もう一人はネットワーク管理で電力の安定供給を担う電力センター所長です。電力センターが平成32年には別会社に分離されます。

ひとつの組織が2つになることで、さまざまな非効率な面も出てきていますが、今から、仕事のやり方を変更したり、本店、支店などの組織を変更したりと平成32年に向けた諸準備をすすめてまいります。これからも別会社となるネットワーク会社が引き続き電力の安定供給に努めてまいりますし、新たな販売部門の会社ではなお一層お客さまの電気使用にあった料金メニューを提案することにより、電気料金の低減につとめてまいります。

最後に「より、そう、ちから。」活動について説明させていただきます。

先ほども申しましたが、2年前に現在の原田社長に交代した際には、「より、そう、ちから。」というコーポレートスローガンを打ち出し、お客さまにより沿う、地域に寄り沿うを合言葉に、

「より、そう、ちから。」活動を行っています。当営業所街路灯の寄贈、弥彦神社周辺の信号機清掃、インターンシップなど、地域の要望を踏まえた活動を積極的にこなしていきたいと考えております。こうした地域により沿う活動は、最初の方で触れました東北電力の前身であった東北振興電力から受け継いでいるDNAでもあるので大切に引き継いでいかなければならないものと考えております。みなさまからも地域の声として当社が何かお役に立てることがありましたら、ぜひお聞かせいただければと思います。以上で「電気の歴史と今?! - 変革のとき -」を終わりますが、まとめをさせていただきますと、

①電気は、産業や人々の暮らしに大きな影響を与えてきた重要なエネルギーです。今電力システム改革が進展していますが、電力マンが守っている**電力の安定供給は、しっかりと担保**していかなければならない。

②**電気料金は、燃料価格の変動や再生可能エネルギーの普及等により大きく変動**していく可能性があります。一方、現在進展している**電力システム改革により電気料金の低減**も試みられています。

③**東北電力は、電力システム改革が進展しネットワーク部門が別会社となっても、電力の安定供給**に不断に取り組んでいくことはわかりません。また、できるだけ**安い電気料金の実現と地域社会の振興**にも果敢に**挑戦**していきます。

—お客さまにより沿う、地域に寄り添う—

「より、そう、ちから。東北電力」

ご清聴ありがとうございました。

